

「四つの知恵」 ～弱さから学ぶ～

蟻（アリ） 蝗（イナゴ） 岩狸（イワダヌキ） 守宮（ヤモリ） あなたはこの中でいくつの漢字が読めたでしょうか。私たちは知っているようで知らないことが多いのです。だからこそ「知る」という努力が大切なのです。あなたは知ろうと努力をしているのでしょうか。そして生きる根底に「なぜ」があるのでしょうか。蟻は夏の間に食べ物を蓄えます。なぜそうするのでしょうか。蟻は夏の間に蓄えないと冬に生きられないことを知っているのです。岩狸は敵から狙われないように岩の間の穴に住むようになりました。蟻も岩狸も自分の弱さを知っているのです。（箴言30：24～28）ここには最初にあげた4つの生き物が出てきます。本来、人は、これらの生き物よりも優れているのでこの学ぶ必要はないはずですが、神様がこの4つの生き物をこの地上の最高の知恵者だと呼んでいるのは、人が知っていながら追求しない姿をアグル（箴言30以降を書いた人物）を通して語っているのです。「相対性理論」言葉は知っていますが、どういうことなのかきちんと知っているのでしょうか。このように私たちはたくさんを知っていますが、あまりにも表面だけすぎるのです。これがとても怖いことなのです。この世のすべてのことが神の知恵に基づいてできています。だからこそ神に似るように作られた私たちは神の知恵にたって生きて欲しいのです。そしてそうするためには自分の「弱さ」を知ることが大切なのです。あなたは自分の弱さを知っているのでしょうか。私たちがやってしまうのは、弱さを開き直ったり、弱さを見ないで放っておいてしまったりすることです。私たちは人のことは中傷しますが、自分の問題点を見ようとはしません。しかし弱さを知ってこそ変化が生じるのです。弱さを知っているからこそ、そこに陥らないように努力します。備えるということはとても大切なことです。私たちは4つの生き物の姿から学ぶ必要があります。①弱さと備え。（1テモテ6：17～19）「また、まことのいのちを得るために、未来に備えて良い基礎を自分自身のために築き上げるように」（19）あなたには基礎がありますか。将来のために備えてやることがありますか。教会にくる一番の特権は備えられることです。あなたに起こるであろうことを毎回語られますが、そのことについて前もって備えているのでしょうか。神様がなぜ弱さを知れと知っているのか考えてください。そしてそれを克服する方法を考えてください。蟻は自分の弱さを知ったので備えることにしたのです。自分の弱さを知り、神様に備えるための知恵をもらってください。②弱さと岩。「主はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。」（詩18：2）私たちはいつも心の中にやぐらを築いていないといけません。やぐらとは、イエス・キリストに対する信仰です。あなたは信じる気持ちが強いでしょうか。神様を信じるといいながら、神様に祈ったことが本当になると信じているのでしょうか。あなたの弱さを知り克服し、信仰をもって乗り越えられると信じていれば、必ず信仰によって守られます。③弱さと一致。自分の弱さを知って初めて、人を自分より優れた人だと思え、「させていただく」という気持ちになれます。自分の劣っているところを知ってこそ、問題を受け入れ、自分の持っていないものを持っている人を尊敬し、一致がおこるのです。蝗が同じ方向に進んでいけるのはこれだけの理由です。教会は自分の弱さを補ってもらい自分も持っているものを通して人に喜ばれるからうれしいのです。だから相手を中傷しては一致は生まれません。自らを立てるためには調和が必要です。（エペソ4：3～5）排他的にならず、自らの持てるものを通して相手に流し、相手にないものをあなたがしてあげてください。あなたが足りなさに気付いたのなら、それはあなたが補うために気付いたのです。たてあい、一致を保つ努力をしてください。④弱さと主の御座 守宮が王の家を選ぶのは敵に狙われないためです。守宮でさえ神のところにいることを選んでいきます。（詩23：1～4）神の前に出て、神によって養われる経験をしてください。あなたはきちんと神の前に出ていますか。ゲッセマネが機能しているのでしょうか。人はいつか必ず終わりのときがきます。だからこそ今を大切にしなければいけません。しかし毎日を完璧に生きろと知っているのではありません。まずは神様の前に出て、自分の弱さを聞き、今日備えよといわれたことを備えてください。そして敵に狙われないあなたの住処を完成させてください。その上で一致を図りその場が神の御座になるように祈ってください。（へブル4：16）あなたの弱さは罪ではありません。恵みです。あなた自身の弱さを認め、主により強くなりましょう。